

八所神社(黒谷)例祭 御遷宮祭 9月5日



けが克服し都市対抗野球で日本一

只見町出身・長谷川進野選手(29)



▲長谷川選手、日本一のガッツポーズ

只見町出身の「長谷川進野さん」が所属する東芝チーム(川崎市)が、第81回都市対抗野球で全国優勝を果たしました。

東芝の優勝は3年ぶり、決勝戦は9月7日に東京ドームで行われ、JR九州(北九州市)と対戦、2対0で勝利しました。

長谷川選手は、平成19年の秋に膝の靭帯を痛める大けがをし、翌年3月に手術、リハビリを乗り越え平成21年1月から東芝でプレーし、今回の優勝にも貢献しました。長谷川選手は、東芝への移籍前に三菱ふそう川崎チームにも5年間所属、その間にも全国制覇を経験しています。電話で「移籍したチームでも優勝できて嬉しい。秋の大会も優勝目指し頑張りたい」と力強く話す長谷川選手、今後の活躍を期待します。

全国大会での只見町出身者の活躍は、町民に夢や希望を与えてくれます。長谷川選手、頑張ってください。

第51回福島県農業賞・新規就農部門 高木正貴さん・純子さん(坂田)受賞



▲高木正貴さん(左)、佐藤知事(中)、純子さん(右)

第51回福島県農業賞(新規就農部門)を、高木正貴さん・純子さん夫妻(坂田)が受賞され、表彰式が9月8日、杉妻会館(福島市)で行われました。

表彰式では、佐藤雄平福島県知事から受賞者一人一人に、賞状と記念の盾が手渡されました。

高木さん夫妻は、福島県での就農を決意され平成16年4月に、家族4人で只見町に移住、トマト栽培の研修を始められました。その後は、生産技術の習得と向上に努められ、平成18年に南郷トマト生産組合新人賞に輝くなど、産地をリードする優良栽培者として働いておられます。高木さん夫妻は、「安全でおいしいトマトを消費者に届けたい」と話されています。受賞おめでとうございます。

南会津地域の発展願い意見交換

移動知事室「知事と語ろう・さわやかトーク」

県民の意見や要望などを県政に活かすこと、そして県政についての理解と関心を深めることを目的とした「知事と語ろう・さわやかトーク」が、9月26日に下郷ふれあいセンター（下郷町）で開かれ、只見町から酒井治子さん（只見）が懇談者として出席されました。

はじめに、佐藤雄平福島県知事のあいさつがあり、「南会津には豊かな自然、公園、文化財産がある。それらを活用しながら地域の発展を目指したい」と話され、懇談者6名が佐藤知事を囲んでの懇談に入りました。

懇談では酒井治子さんが20〜30歳代のお母さんが働きに出れる環境や場所の確保が必要、観光関連でも働き場の提供ができればいいと思う。と考えを述べ、佐藤知事は女性の社会進出については県民会議でも協議している。女性が社会に出る環境を地域ぐるみでつくっていくことが大切。また、地域のカラーを観光で出し、着地型観光に結び付けてほしい。と話しました。

出席者全員の質問や意見に対し回答されたあと、フリートークが行われ懇談が終了しました。最後に佐藤知事は、できることから始めていただき、情報を私たちに伝えないでいただきながら地域づくりを推進していきなさい。と話されました。



▲佐藤知事と記念撮影

さわやかトークに参加して



酒井治子さん
(只見)

初めて参加して、知事と直接お話しして話すことができ、とても緊張しましたが、貴重な経験をさせていただきました。私自身は、自分の故郷で暮らしながら、仕事と子育てをして暮らしている只見町の良さ、そして仕事として関わっている観光まちづくりについて知事にお話ししました。福島県でも、地域の子供たちの一時保育に地元のおじいちゃん、おばあちゃん

が積極的に子育てに協力できるしくみづくりに取り組みたいと考えていること、また平成24年度には福島県の観光PRに関する大型キャンペーンが始まるということで、今後の観光に向けたお話を聞くことができました。南会津の各地域で様々な分野で地域を元気にしようと活躍されている方の話や課題なども聞け、只見町だけでなく、南会津全体でまちづくりをすすめていく大切さも改めて感じました。

平成22年度只見町敬老会が只見・朝日・明和の各地区センターで、9月12日に開かれ、今年度の満75歳以上の方々が、只見地区で158名、朝日地区で196名、明和地区で205名が出席されました。

平成22年9月1日現在での福島県の高齢化率（総人口に占める65歳以上の人口の割合）は24・9%で、同時期の只見町の高齢化率は41・4%であり、県内で4番目に高いものです。また、町内には満百歳以上の方が4名おられ、長寿の町となっています。

只見地区の敬老会では、目黒



▲楽しく過ごす出席者(明和地区)

町長が「豊かな経験と知識を地域活動に活かされ、今後も町の発展のためご協力をお願いいたします。生きがいを持てるよう高齢者福祉の充実に努めます」とあいさつし、続いて、酒井右一町議会副議長が祝辞を述べ、只見地区老人クラブ連絡協議会会長の鈴木慎介さんが「自己管理に努め、事故などに遭わないよう注意し長生きしたいと思います」と謝辞を述べました。

祝宴では、ユーモアあふれるアトラクションが続き、只見保育所年長組の5名がお遊戯を披露、さらに婦人会の皆さんによる華麗な舞踊などが行われ、会場内は大きな拍手と歓声にまつまれました。温かい心がこもったすばらしい敬老会でした。皆さん、これからも元気で長生きしてください。



▲敬老を祝い乾杯(只見地区センター)

楽しく笑って元気に長生き！

平成22年度只見町敬老会

皆川雅舟(政一郎)さんが「自然首都・只見応援基金」に寄附



▲寄附金を手渡す恭舟さん(左)

只見町名誉町民で書家の皆川雅舟(政一郎)さん(郡山市)が「自然首都・只見応援基金」に100万円を寄附されました。

寄附金は皆川さんの長女、恭舟(恭子)

さんが9月6日に役場本庁を訪れ、町長室で目黒町長に手渡されました。

町からも、このご厚意に敬意と感謝の気持ちを込め、9月11日に行われた皆川さんの胸像除幕式の席上で恭舟さんに感謝状を贈呈しました。

いただいたご寄附は、有効に活用させていただきます。ありがとうございました。



▲高校時代の思い出を話す大竹隆二さん

只見高校の様子や支援体制などを理解してもらうことを目的に、高等学校への進学を控える中学3年生の保護者など関係者約50名が出席し、只見高等学校振興対策懇談会が、9月14日に朝日地区センターで開かれました。

はじめに振興対策会議会長の目黒町長より「進路について情報交換いただき、また只見高校についての理解が高まることを期待します」とあいさつがあり、続いて鈴木健司只見高等学校校長からは「近隣の中学生が只見

に向いている傾向にあります。只見中学校の生徒も多く入学いただき、成果や実績を残していただきたい」とあいさつがありました。

只見高校の卒業生と部活動指導者からの発表では、平成21年度卒業の大竹隆二さん(布沢)が「学校生活では人間関係や人とのつながりが一番大切。先生、生徒、全員が友達ということがすばらしい学校。この学校でできた友達は大切な宝物。只見高校を卒業できて本当に良かった」と時おり笑顔を見せ話しました。最後に、懇談が行われ、出席者と先生との情報交換も深まり、有意義な懇談会となりました。

故郷の只見に胸像建つ

皆川雅舟(政一郎)さんの胸像除幕式



▲胸像の完成を喜ぶ恭舟さん(中央)

只見町名誉町民で墨雅書道会代表、郡山市在住の書家「皆川雅舟(政一郎)さん(87)」の胸像が、故郷の田子倉地内にある若宮八幡宮境内に建立され、9月11日に除幕式が行われました。場所は田子倉湖を見渡せる位置にという皆川さんの希望により決められました。

皆川さんが地域文化功労賞(国)や文化功労賞(県)を受賞されたこと

から、その功績をたたえ墨雅書道会会員の方などの寄附で胸像が建てられました。

除幕式には実行委員長の山田鳳仙さんや墨雅書道会会長で長女の恭舟(恭子)さん、目黒町長、五十嵐拓町議会議長、墨雅書道会会員の方などが出席、胸像を除幕しました。

最後に、皆川さんから只見町に、次世代の育成にと多大なご寄附をいただいたことから、目黒町長が恭舟さんに感謝状を贈呈しました。

響け輝け世代をこえて!!

福島県芸術祭に小林早乙女保存会が出演

福島県芸術文化団体連合会などが主催し、9月5日に會津風雅堂(会津若松市)で開かれた福島県芸術祭に只見町から小林早乙女保存会(堀金俊彦会長)が出演しました。

この催しは、県内最大級の芸術文化の祭典で9月から11月にわたり行われます。その開幕行事として県の伝統文化団体による伝統芸能が披露され、小林早乙女保存会はじめ、会津の各地域から7団体が出演、踊りや獅子舞、民謡などで、県内各地から集まった観客を、地域に伝わ



▲小林早乙女保存会の踊り

る独特の芸能の世界へと引き込んでいました。